

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対する当館スタッフの心構え

— ワンチームで乗り切るために —

今、私たちは100年に一度という極めて困難な世界中の「感染症パンデミック」の真ただ中にあることを自覚しましょう。

しかも我々介護施設は3密を避けられないために、一歩間違えれば施設もろとも壊滅してしまう程の、最も脆弱な環境にあります。まず、これを前提において対処（すべきこと）、を考えましょう。

なぜなら他県では発症しても入院できず、そのまま自施設で看ざるを得ない状況が現に発生しているからです。

私たちに出来ることはワンチーム（多職種協働）で立ち向かうことしかできません。それでも駄目かもしれませんがそれしかありません。

具体的には、みんなで気を付けていてそれでも発病者が入って来てしまった時は、一蓮托生、わが施設はみんなで冬眠ということになります。じっと耐えてお互いを非難しないこと、耐えることしかありません。

それゆえ、何度も言いますが入る前に危ない情報をキャッチすること、入るのを如何に予防するかがすべてとなります。

既に私たちはサージカルマスクの温存・顔面シールド・ゴミ袋での手作りの「袖付手袋付頭フード付きガウン」、等の用意はしていますが、これはあくまでも万々が一の用意です。もし入って来てしまったらもう手遅れですがそれでもこれらを使って最低限の対応をするしかありません。工夫して他の入所者や職員家族も守ることを最大限に考えます。このウイルスの特徴は発病前から感染させてしまうということが分かってきましたので確定診断してからの対応では既に遅すぎるのです。

ですから今私たちに出来ることは、「自分が少しでも体調が不安だったら遠慮なく休むこと申し出ること、ずる休みと受け取らないこと、自分のまわりの濃厚接触者疑いの疑いに気付いたときは遠慮なく躊躇なく上司同僚へのホウ・レン・ソウを実行すること、まさかの時にもお互いにばい菌扱いしないこと、明日は我が身、職員は一蓮托生、その時はみんなで諦める、みんなで冬眠、」です。

幸い今、COVID-19はわが国では収束を迎える一歩手前です。しかし、いつの日か第2波が来るとも言われていますので、なおしばらく警戒は怠れません。

群馬県の「社会経済活動再開に向けたガイドライン」が出て5月16日から始まりました。

群馬県のホームページに載っていますので読んでおいてください。介護施設の面会禁止は「警戒度1」になるまで続くことになりました。それまではオンライン面会が続きます。

県ごとに違うようですが、群馬県のこれからの「行動基準」、「新しい生活様式」の表を添えましたのでご確認ください。

老人保健施設一羊館の理念

利用者の方々すべてに尊厳・安心・満足を！

一羊館の行動指針

私たちは、保健・医療・福祉の架け橋のプロに徹します。
私たちは、利用者のQOL・職員のQOL・健全経営の3立を目指します。
私たちは、質向上のために日々の小さな工夫を忘れません。



話合いの3原則：

- ①相手の意見は決して否定しないでしっかり聞きます。
- ②自分の意見はしっかり言う。ポジティブ表現で言います。
- ③正解は一つではないことを自覚して自制します。